

性のこと、子どもにどう伝えよう？

11月6日(日)、講師に吉田アイ子さんをお招きし、「赤ちゃんはどこからくるの？～子どもと話す性のこと～」を向原地区世代間交流センターで開催しました。講師のアイ子さんは、長年養護教諭として小中学校に勤務され、現在は「うごく保健室」の名で、ひとところに留まらず性教育や悩み相談を行っていらっしゃいます。22組、赤ちゃんを含め50名以上が集まるにぎやかな会となりました。

お話は、現代の子どもたちの性の実態、小学2年生向けにアイ子さんが実際に行っている性教育の内容など大人向けのお話から、絵本や紙芝居の読み聞かせ、胎児～受精から出産まで～のDVD視聴、産道体験(縛った布団の間を通る疑似体験)といった子どもも楽しめるものまで、盛りだくさんの内容でした。参加者の方々からたくさんの感想をいただいたので一部ご紹介します。

- 赤ちゃんのうまれかたがわかった。(2年生)
- DVDでは生まれる赤ちゃんのやっていることや、どうやって赤ちゃんがでてくるか、ということがはじめてわかりました。(4年生)
- 性教育は、小さい時の方が教えるのに良いのだと聞いて、また考えが変わりました。家でも性のことが聞きやすい状態にしておきたいなと思います。
- 知識をきちんと持つ子たちの方が、良いクラス、関係を築けるということが分かって良かったです。
- 恥ずかしいものではなく、素晴らしい生命の営みとして、堂々と子どもたちに伝えられるように、教えていただいた絵本、教材などを私もしっかり勉強して楽しみたいと思いました。
- 自分は素晴らしい存在で、愛されていて、性交は愛情の表現で、その結果望まれて生まれてきたのだということや、自分や相手を大切にする気持ちを教えていけば、情報がどこでも得られる今でも、望まない妊娠や性犯罪から子どもを守るのではないかと思います。
- 人が、命がどう大切かというところに深くつながるのが性教育かと思います。親として自分の子どもが自分をどう守るか、どんな人間関係をつくっていくのか、改めてしっかり学び伝えることを大切にしていきたいと思いました。

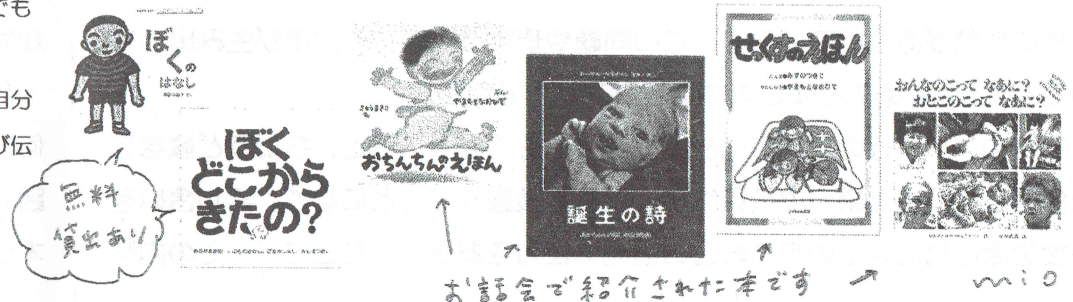
お話会では子どもたちに伝えることが目的の1つでしたが、今回は大人の方々の関心も高かったです。いまの親世代である私たちが子どものころは、学校の授業で少し話を聞いたくらいで、「親から性の話を聞いた」経験がある方は少ないと思います。経験がないから、お腹の中の赤ちゃんの様子などは良いとして、その前のこと——セックスや体の仕組みをどう話したら良いのか、そもそも話して良いものなのか戸惑ったりして……。親にとっても、子どもと大人で性に向き合うことは未知の世界。そこで、親同士も情報共有しながら考えていきたいな、というのがこのテーマの始まりであり、その第1回として、アイ子さんのお力をおかりしました。

同じ話を聞いていても、子どもたち(今回の対象年齢は5～9歳)の興味を持つポイントはそれぞれ違います。胎児が爬虫類のようなところから成長していく様子が面白かったという子、性器の仕組みを知り感心している子、とにかく産道体験が楽しかったという子。「性教育」というと、私たち大人はなんだかドギマギしてしまいますが、子どもの関心はいわゆる性行為だけではないことに気づかされます。

アイ子さんのお話では、性について正確な知識や情報を持たないがゆえに起こる小中学校での問題が多くとりあげられていました。私も自分の子どもたちに性を題材にした絵本を読み始めて数か月が経ちましたが、実際にやってみると、子どもの反応が面白かったり、自分が持つ偏見みたいなものに気づいたり、どう伝えたいのかわからなかったり、まだまだ手さぐりしているところです。これを機に、その後の子どもの様子を伝え合ったり、家庭での性教育について相談し合ったり、絵本を読んだりする時間を継続して持てたらいいなと思っています。興味のある方はご連絡ください☆ (miyota.ashitane@gmail.com)

話しにくいな...という時には、
絵本も頼りになります。

次回「親から伝える性のこと」
の詳細は、イベント告知ページで!



お話し会で紹介された本です

みい